

# No. 1521

## 春の訪れ

— 南 伊 豆 —

八

南伊豆の<sup>八</sup>木崎の水仙は今が盛り。ギリシャ時代から伝説にも出てくる水仙は「春と共によみがえる宗教的な花」とも云われています。ここに群生している球根は百万個。春を呼ぶ花として人気を呼んでいます。一方、伊豆半島最南端の伊廊崎。春の陽を浴びて観光客のにぎわいが増えています。暖かさにつれていよいよ旅行シーズンの始まりのようです。

## 古くて新しい町づくり

— 静 岡 ・ 松 崎 町 —

静岡県賀茂郡松崎町。人口約1万、西伊豆の中心地として、歴史的遺産、温泉、美しい海岸線を生かした観光を目玉に「花とロマンの里」づくりを進めています。

2年前に国道沿いにつくられた「伊豆の長八美術館」。幕末から明治にかけて漆喰の鰻絵の名人といわれた地元出身の入江長八を記念して造られたもの。館内には長八の漆喰と鰻だけで仕上げた80余点の作品が展示され入館者の注目を呼んでいます。明治13年に建てられ国の重要文化財になっている岩科学校にも長八の作品が現存しています。

また町内には江戸時代から残るなまこ壁の家並みを生かした「なまこ壁通り」や那賀川にかかる橋にも鰻絵を新しくはめこむなど長八の伝統が生かされています。

また町の商店街の一つ、ときわ橋通りでは一日、十五日に家紋入りのノレンを一斉にかけて町のふんい気づくり協力しています。町当局ではより観光行政を盛り上げるため考え出されたのが「民宿カラー作戦」同じ地域の民宿の色彩を統一して売り出そうというアイデア。

実験にえられたのが美しい浜辺をもつ岩地地区。人口400人余、100戸余の集落のうち50戸余りが民宿を営んでいます。昨年秋から五戸で実験を開始。屋根は黄金に近い「うこん色」壁はクリーム色に近い「くちなし色」で、少しづつ色調をかえて塗り替えたもの。塗料代は町が負担。地元の人の評判も上々とか。

町ではこの春までには色彩を決めて残りの民宿にも実施する予定。

「東洋のコートダジュール」を目指す町長の夢がみのるかどうかが全国から注目されています。